



— チェルノブイリに思いをよせて —

ポレーシェ

第2回 種まき体験 に思う！

今年の異常な気候変動を心配しながらも、9月27日に「第2回 ナタネの種まき会」を無事に実施することができ、今はホッと胸をなでおろしています。

2回目を迎えた「種まき体験」に、多くの皆さんが足を運んでくださり、それぞれの思いを込めて小さな命を大地に託していただきました。

震災原発事故から4年6ヶ月が過ぎてなお、予想される地域社会の復興や次世代に託す環境は、一段と厳しさが待ち受ける状況にあると感じます。2016年4月には、小高区の避難解除が予定されており、帰宅に向けた心の準備に思いを寄せる人々、一方で、不安の払拭には至らない方も多くおられると聞いております。それぞれに、こうした多くの問題を抱え、先の見えない状況の中におかれると、非常に不安なことばかりが頭をよぎります。

私どもは、「放射能測定センター・南相馬（とどけ鳥）」の汚染マップ等から、汚染状況の推移を見つめ、自ら安全な生活環境を見分けて、その方策の一つとして「菜の花栽培」の取り組みを進めてきました。冬の厳しい寒さに耐えながら、一粒一粒の命たちは、満開に咲き誇る5月の菜の花畑を、演出してくれるものと思います。

菜の花同様、厳しく遠い道ではありますが、多くの皆さんと一緒に歩み続けられる環境を、ともに考えながら前を目指したいと思います。皆様の熱いご協力、本当にありがとうございました。（南相馬農地再生協議会 代表 杉内 清繁）

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行名：三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部（店番号150）

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813（月・水・金 10:00～17:00）

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

<油菜ちゃんの種まき会に参加しました。>

(神野 美知江)

9月27日、「磐城太田駅（南相馬市）」近くの菜の花畑で、「種まき会」が行われました。昨年に引き続き、中間テスト前だというのに相馬農業高校生が約20名、新たに滋賀県からは「菜の花プロジェクトネットワーク」が募った、3泊4日（車中2泊）の強行軍で20数名の参加。活動に理解のあるご近所の皆さん数十名。そして、チェル救からも4名が参加し、その他、スタッフと合わせて総勢100名を超える、盛大な「種まき会」となりました。



前日に雨が降ったので、畑の土は湿って重く、長靴なしではとても畑に足を踏み入れることができませんでした。ただでさえ歩く機会が少ない私・・・足を取られながらも中腰で行う種まきは、太ももとお尻の筋肉がプルプルする程の辛さ・・・休み休みでしたが、見事一畝を蒔き切りました。



この夏、新たに入手した「トラクター」も披露されました。重い土なので、能力を十分発揮できなかったかもしれません。来年の春の「測定隊（空間線量率測定）」の頃、常磐線・磐城太田駅までの線路の両側には、黄色い絨毯が広がることでしょう。

油菜ちゃんを味わう幸せ

(小林 友子)

9月27日（日）の朝は、心配していた雨も降らず、素晴らしい青空が広がっていました。油菜ちゃんの種まきの日です。

残念ながら、農地再生協議会の女性部は、朝からお昼の食事の準備があり、種まきには参加できませんでしたが、太田生涯学習センターで、油菜ちゃんを使った料理に腕をふるいました。メニューは、今年から協議会の事務を手伝ってくれている鈴木さとこさんが、提案してくれました。オシャレで、若い感覚で盛り付けられた料理が、田舎の私達を刺激してくれました。



昨年は、油菜ちゃんて揚げた天ぷらをたっぷり食べていただきましたが、今年は、野菜の甘みと美味しさを感じる様に、油菜ちゃんて素揚げにしてみました。野菜スティックは、新製品「油菜マヨ」の美味しさを引き立てるため、アボカドと辛子マヨを加えて味わっていただきました。

いつも、油菜ちゃんを使った揚げものを料理して思う事ですが、本当に素晴らしい油だと思いません。何度揚げても疲れな、そんなに汚れない。油が減らない。純粋な菜種油を知らない私でした。

ここ南相馬の地では、菜種を植えていたのを覚えています。もう50年も前、菜の花畑で花摘みをして、匂いを嗅いでいた記憶があります。農家の人は菜種油を普通に食べていたのですね。また、この歳になり、もう一度菜種油に出会えたことに感謝です。ここで関わっている仲間の一人でいられる事に、幸せを感じます。



一緒に油菜ちゃんの料理を作ってくれた、杉内さん・奥村さん・江口さん・門馬さん・遠藤さん・・・太田地区の皆様、さとこさん、ありがとうございました。楽しいひとときでした。



チェルノブイリとフクシマに贈る

クリスマスカードを作ろう！！（山盛）

毎年秋になると、「今年はどんなカードが集まるのかな？」と、ときめいてきます。

「チェルノブイリ救援・中部」を立ち上げた当初から行ってきた、クリスマスカード・キャンペーン。今年も、チェルノブイリとフクシマの原発被災地の子どもやお年寄りに、クリスマスカー

ドをプレゼントしましょう。

老若男女、誰でもできて、お金もかからなくて…。でも、本当に心温まる支援です。

さっそく、紅葉の季節から、カード作りイベントを開催します。是非、ご参加ください！！

・日時：2015年11月15日（日）13時～17時（入退場自由）

・場所：名古屋YWCA 405号室

名古屋市中区新栄町2丁目3（地下鉄「栄」東⑥番出口。

東へ徒歩2分。「ノリタケ」の近く。） ☎052-961-7707

・参加費：無料

★文房具や材料をいろいろ用意して待ってます！！



クリスマスカードをプレゼントする「サンタさん」「トナカイさん」大募集！！（山盛）



2011年3月、東電福島第一原発事故で被災した南相馬。そこに、「チェルノブイリ救援・中部」は「放射能測定センター・南相馬（通称：とどけ鳥）」を開設し、地元の方の被曝をできるかぎり軽減する提案をしようと、様々な食品・土壌・水等の測定を行っています。その「とどけ鳥」のスタッフは毎年、幼稚園・保育園・学校・老人施設に赴き、サンタやトナカイに変身して、クリスマスカードを手渡しでプレゼントします。ある老人ホームから届いた

たお礼状には、「カードの袋を開けた瞬間、パッと弾けんばかりの笑顔を見せる方。『ほー、たいしたもんだ』としきりに感心する方。様々な感情がわいてくるこの瞬間は、高齢者にとってかけがえのないものです」と書かれていました。また、子ども達は、突然の「サンタさん」「トナカイさん」の訪問に大喜び。笑顔の写真が送られてきます。たかが一枚のカード、されど一枚のカード！なんという「威力」！でしょう。

今年も、冬休み前にカードを手渡すため、「サンタさん」「トナカイさん」は大活躍しなければなりません。去年は15か所、1,143枚ものカードを配りました。もっと手が欲しい…。そこで、今年も「サンタさん」「トナカイさん」のボランティアを募集します。

12月16日（水）17日（木）と、12月21日（月）22日（火）23日（水）に配る予定です。

是非、ご協力ください。

★お問い合わせ：チェルノブイリ救援・中部 事務局 052-228-6813（月・水・金 10時～17時）

Nタマ14期生の「加藤 喜大」です。

今年の8月頃から、チェルノブイリ救援活動のほうで、クリスマスカード・キャンペーンの担当をしております。現在大学4年生で、趣味はサッカー観戦とフットサルなどです。自分の成長につながると思い、Nタマやこのインターンに参加しました。社会人になる前であり、未熟なところもありますが、スタッフの皆様、参加してくださる人達と一緒にあって、この企画を成し遂げたいと考えています。よろしくお祈りします。



南相馬便り

(神谷 俊尚)

☆9月初め、先号でお知らせしました「ホットスポットファインダー（GPS 連動型空間線量率自動記録システム）」のご案内（各家庭の屋内外の戸別訪問測定を行います!!）を、測定センターのチラシに記載し、南相馬市内全戸に新聞折込で広報しました。さっそく、小高区内を始めとする 6 軒の申し込みがあり、現在、戸別訪問しながら測定を始めています。来年 4 月の小高区「避難指し解除準備区域」の解除に向け、9/28 に仮設店舗「東町エンガワ商店」が、10/1 には情報交流センター「おだかぶらっとほーむ」がオープンしました。しかし、帰還予定の住民は、家屋内外の汚染状況に不安も抱えています。年明けには再度広報をして、自分たちで汚染実態を正確に把握できるよう、お手伝いができればと考えています。

9 月に入り、測定センター内は一気に、**野生きのこ類**の香りに包まれました。ほとんどの方が、「今年は大丈夫かな」「今年もダメだろうね」・・・期待半分／諦め半分で検体を持ってきます。9/16 に、とどけ鳥ブログで速報結果を発表しましたが、2012 年きのこ類平均値（以下同じ）：4,356Bq/kg、2013 年：3,007 Bq /kg、2014 年：1,792 Bq /kg、2015 年：1,317 Bq /kg（とどけ鳥測定分のみ）と、平均値は下がって来ていますが、**今年も 100 Bq /kg(政府基準)以下の相双地区産はありません。**100～2,000 Bq /kg：75%、2,000～4,000 Bq /kg：16.7%、4,000～6,000 Bq /kg：0%、6,000～8,000 Bq /kg：8.3%、8,000 Bq /kg～：0%（9/16 以降には、8,000 Bq /kg 超も数検体出ました。）**決して食する状態ではありません。**

☆9/27（日）、（社）南相馬農地再生協議会主催の「菜の花種まき会」が開催され、100 名以上が参加しました。9 月中旬からの長雨で、圃場整備が遅れて心配されましたが、前日昼頃から雨も上がり、当日早朝からの畝立て作業でようやく圃場整備が完了し、中間テスト中の相馬農業高校生 18 名とともに、播種作業を、滋賀県・愛知県・静岡県・東京都・埼玉県・宮城県・茨城県からの参加者と、地元の参加者で行いました。その後、えこえね南相馬研究機構が完成させた「ソーラーシェアリング」9 事業を、「再エネの里」を中心に見学し、高橋代表理事から趣旨説明を受け、「油菜花ちゃん」を使った料理に舌鼓を打ちながら、交流会も行いました（詳細は P1～P2 参照）。（社）南相馬農地再生協議会の今年度の菜種播種予定は、「30 ヘクタール」となり昨年より大幅に増えています。当初、9/20 過ぎから順次作業に掛る予定が、長雨の影響で大幅に遅れています。受託している稲作約 8 ヘクタールの収穫ともども、10 月中旬までは大車輪の日々が続きそうです。

☆少し古い資料になりますが、今年 4 月段階での 18 歳未満の避難者は、福島県全体で 23,498 名 南相馬市 4,729 名（避難先 南相馬市内 1,769 名 県内 1,086 名 県外 1,874 名）20%、相双地区（広野町・楡葉町・川内村・葛尾村・浪江町・大熊町・双葉町・富岡町・飯館村）の 9 町村で 11,178 名（県内 7,999 名 県外 3,179 名）47.6%、福島県浜通りで約 68%を占めています。また、県内 3 都市を見ると福島市 2,059 名（県外 2,034 名）、郡山市 2,032 名（県外 2,001 名）、いわき市 1,690 名（県外 1,138 名）と、県外避難者が圧倒的に多い。県全体では、県内 51.1%、県外 48.9%と、ほぼ半々になっています。

☆南相馬市内では、農地のいたるところに「農地除染中」の旗が立っています。当初、南相馬市内（鹿島区・原町区のみ、小高区は国直轄）全域を T グループ JV が受注していましたが、住宅除染で手一杯になり、農地・農道・農業用水の除染を昨年 2 月以降 S 建設へ移行し、スタートが大幅に遅れました。

右の表は、市発表の 8/22 現在の現況です。当初 T グループ JV が受注した時点での計画では、農地関係は 2015 年 3 月末に完了予定でしたが、大幅な遅れとなっています。

農地除染	田	原町区 (1,984ha)	除染済 1,293.7ha	65%	全体で 71%
		鹿島区 (1,281ha)	除染済 1,034.3ha	80%	
	畑	原町区 (983ha)	除染済 323.7ha	32%	全体で 38%
		鹿島区 (595ha)	除染済 283.3ha	47%	
農業用水路	原町区 (868km)	除染済 817km	94%	全体で 93% (10 月末完了予定)	
	鹿島区 (668km)	除染済 620km	92%		
農道除染	原町区 (258km)	除染済 7km	2%	全体で 2%	
	鹿島区 (80km)	除染済 3km	3%		

掃除機で集塵したダストの測定を行って

(とどけ鳥 小林 岳紀)

放射能測定センター（とどけ鳥）に、ある日、掃除機のゴミパックが持ち込まれました。さっそく測定を行ったところ、福島県内や南相馬市内での検体から、相当高い数値が検出されたのです。当放射能測定センターでは、南相馬市内の民家の庭先で、大気を吸引し、フィルターに付着したホコリの放射線量測定も行っていますが、試験体の採取と計測に、通常の数倍の長時間（吸引100時間、測定20時間）をかけて、やっと検出される程度の値なのです（測定結果：約0.0001Bq/m³）。

この様に、「放射性物質が、大気中にはほとんど浮遊していないにもかかわらず、掃除機のゴミには高い数値が検出された」意味を調べてみたくなり、日本全国の検体集めを思い立ちました。現時点では（北海道から九州まで広範囲ではありますが）、まだまだ20数検体にとどまり、寂しい状況であることは否めません。少ない試験体ではありますが、測定した結果を下のグラフに示します。福島県内では相当高い数値、千葉県柏市では検出レベルぎりぎりの数値でしたが「検出」され、その他の地域は検出限界以下でした。福島県内が高い事は十分理解できますが、千葉県柏市で検出されたということは、一時騒がれていたホットスポットの影響なののでしょうか？

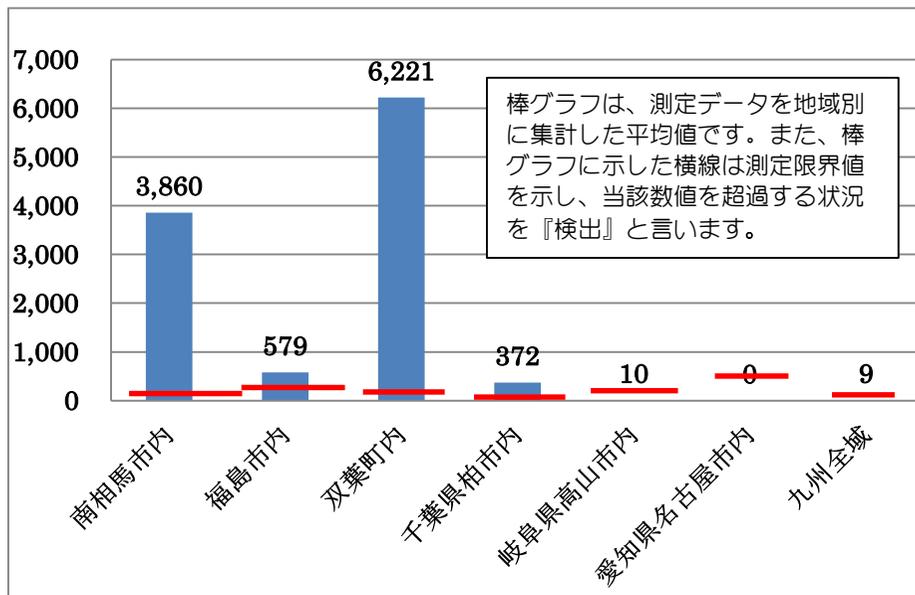
この掃除機ダストを測定しようと計画した事は、決して高い数値を示す地域を探す事ではなく、掃除機のフィルターによる放射性物質の除去効果、「繰り返して清掃する事で、生活環境を改善できるのではないか」・・・と思うからです。思いついたら、自分たちで集めて自分たちで測り、自分たちで知って判断する事が重要ではないでしょうか。

ゴミを採集した検体は、福島県内のうち「福島市内」と「南相馬市内」に集中しており、福島県の各地や隣接する県を中心として、もっともっと検体が欲しいところです。更に、他の都道府県の検体についても、是非集めたいと思います。そこで紙面をお借りして、皆さまのお住まいの地域の検体提供を呼びかけます。

【掃除機ダスト 提供のお願い】

重さは、約100g以上、ゴミパックからは取り出さず、ゴミパックのままポリ袋に入れる。下記の住所まで送ってください。掃除機のゴミは、数か月単位で集めていただければ幸いです。【送り先】福島県 南相馬市 原町区錦町2-67 放射能測定センター・南相馬
Tel & fax 0244-24-5166 mail : todokedori@sokutei-minamisoma.org

掃除機ダスト放射線量の測定結果（表示数値単位；Bq/Kg）



信州伊那谷 親子リフレッシュツアー2015 報告

伊那谷親子リフレッシュプロジェクト代表 原 富男



*28名で保養ツアー開催！

長野県伊那市に福島県の親子を招く保養ツアーを始めて3回目となりました。今年は、ツアー参加者を送り出してくださる南相馬市の「こどものつばさ」の一次募集申し込みを私が忘れるという大失敗があり、一時は今年の保養ツアーは少数での開催か？と思われましたが、「こどものつばさ」の機転による助けやスタッフのネットでの募集などにより、結果的には定員25名を超える28名での開催となりました。また、一部ではありますが、電話での申込みでの手違いもあり、大変ご迷惑をおかけしました。

*贅沢にもイワナ掴み、バーベキュー、乗馬、蕎麦打ち、川遊び、野菜収穫 そんでもって花火もだ！

今年も、会場は長谷地区の公民館である溝友館。

・7月24日夕方4時30分、南相馬市・福島市・須賀川市・二本松市から、貸し切りバスと自家用車で28名が到着。到着後温泉で休息の後、ウエルカムパーティー。

・25日は、朝から野菜収穫と蕎麦打ちグループに分かれる。野菜収穫グループは、有機農業をされている宇野さんの畑でジャガイモ掘りをさせていただく。一方の蕎麦打ちグループは、南無庵のお婆ちゃん4名の指導の下、蕎麦打ち体験。お昼は自前の蕎麦をいただく。当然美味しい！ 午後は、山室川上流まで足を伸ばし「川遊び」。オタマジャクシを捕まえている子あり、川にジャンプする子あり。夕方は仙流荘のお風呂。夜は贅沢な花火大会。

・26日午前中は、地元溝口地区の皆さんによる招待で、小犬沢でのイワナ掴み、バーベキュー。マスならよくある話だが、イワナとは豪勢だ！ 山村ならではのもてなし。ボランティアを含め40名程の我々を、毎年無料で招待して下さる。

毎年当たり前のように、普通に招待して下さることに感謝したい。

午後はフリーキッズの広場に集まり、横山さんに乗馬体験をさせていただく。馬の名前は「ビンゴ」、普段は農耕馬として飼われているが、今日は鞍を付けて乗馬。広場周辺の山道を交代で乗せてもらう。歩きたびに、左右に揺られる感覚と馬の温かさを感じる。幸せなのだ。乗馬は楽しい。今日の温泉は高遠の「桜の湯」。夜は大人の交流会。福島での生活のこと・移住のこと・子どもの健康のことなど、話は尽きない。3日目にして、心を開き話ができる。

・27日は、帰宅のための準備の後、溝友館から5分ほどの所にある熱田神社に行く。地元の方から説明を受け、国の重要文化財である神社の彫り物を見学。普段は中までは入れないが、特別に見せていただく。感謝。これで保養プログラムは全て終了。午前10時に、皆さん帰宅の途に着かれた。南相馬には夜7時過ぎの到着。到着が遅れた理由は、サービスエリア毎に「おしっこ！」だったようだ。

*ボランティア、カンパに感謝します。

運営を支えるボランティアの方々、遠く東京から3名も参加していただきました。毎年参加して下さり頭が下がります。食材についても、事前のお願いが不十分だったにもかかわらず、気持ちよく野菜やお米・牛乳・海苔・調味料などを提供していただき、ありがたい事でした。資金は、一回の保養ツアーで100万円程度かかっているのですが、大勢の方からカンパをいただきました。昨年バス代が50万円に値上がりし苦しい状態ですが、今年は初めて助成金申請に挑戦し、ラッシュジャパンという会社から43万円の助成金をいただくことができました。ラッシュジャパン、そしてカンパを寄せてくださった皆さんに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

*福島県の子ども8月31日現在、甲状腺がんと疑われる子どもは137名となり、その内105人が手術
東電福島原発事故から4年半が経ちました。国は事故の実態を隠し、影響も少ないとしています。しかし、福島県民健康調査専門家会議は、今年8月31日に新たな甲状腺がんデータなどを公表し、甲状腺がんと疑われる子どもは、検査対象38万人のうち137名となり、その内105人が手術を受けまし

た。内訳は、病理診断により1人が良性結節、残り104人が甲状腺がんと確定しました。チェルノブイリの経験では、事故後3~4年から病気は急増し、その後も病気は増え続けています。チェルノブイリ事故後のウクライナやベラルーシでは、国の責任で被災者の保養に取り組み、汚染地の子ども達を、最低でも3週間の保養ツアーに参加させてきました。この結果、「3週間の保養で、体内放射能は半減する」ことが明らかになっています。ウクライナでは、国も一般の人も、保養はごく普通のことと捉えています。この点が、日本との大きな違いです。繰り返しますが、日本国は基本的に保養の必要性を認めておりません。

*事故から29年のナロジチの子ども…「一人当たり3~4件の深刻な病気を抱える」

ウクライナでは事故から29年経ち、当時の赤ん坊が親となっています。ナロジチ幼稚園では、その子ども達全員が3~4件の深刻な病気を抱えているのが現状です。ジトミル州では、州予算で2013年は2,068名の児童が保養ツアーに参加し、ナロジチ地区でも744名の児童が保養ツアーに出かけています。にもかかわらず、「3~4件/人」の深刻な病気を抱えていることから見ると、保養の体制のない福島の子どもの未来はどうなるのか心配です。今のうちに保養の体制を確立しなければ、とんでもない事態になるのではないのでしょうか。今年4月に、ウクライナのオブルチ病院を訪問した時、肛門のない赤ん坊が生まれていました。個人的な発想なのですが、私達の伊那谷保養ツアーも、「より効果的な」ものに発展させなくてはならない時期を迎えたと思います。年一度3泊4日ではなく、「せめて7日間」または「年に何回か」、またもっと発展させて（これは将来の夢ですが）、常設保養センターの設立なども、考えなければなりません。また同時に、始まったばかりの「こども被災者支援法」の拡充と強化を、国に強く迫って行かなければなりません。

*「保養ツアー」の役割の大きさを痛感

今年の保養ツアーの後、9月27日に鎌仲ひとみ監督の映画「小さき声のカノン」上映会（監督講演会含む）を開催しました。この映画は、福島とチェルノブイリの子ども達の保養に関する映画です。頑張りが足りず、参加者100名での上映会となりましたが、私達のやってきた「保養ツアー」の役割の大きさを痛感させるものでした。私達は小さな存在ですが、来年もまた保養ツアーを続けたいと思います。皆さまのご協力で深く感謝申し上げます。来年もまた会いましょう！

参加者の声・声

☆震災後4年がたち、だんだん前と同じような生活ができるようになってきましたが、子ども達が安心して自然の中で遊ぶことが震災前と同じようにはできませんでした。そんな中で、自然の中で思いっきり遊ぶこのツアーを知り、なかなかできない体験をさせてあげたいと思い参加しました。魚つかみや川遊び・そば打ちなど、子どもはもちろん私たち親も楽しませていただきました。ありがとうございました。

☆川遊びで泳ぐ息子の笑顔がとても楽しそうで、最近の中で一番楽しそうな笑顔でした。参加して本当にかかったと思う瞬間でした。スタッフの皆さんボランティアの皆さん、一緒に参加された皆さん、大変お世話になりました。

☆おいしい空気・おいしい食事・たのしい行事、本当にありがとうございました。やっと除染の始まった南相馬市です。長野のように、おいしいお米・新鮮な野菜・魚はいつになったら口にできるのか、先の見えない生活です。3泊4日の滞在でしたが、充分「心の除染」ができました。ありがとうございました。ツアーを終えて、川や野山で嬉々として遊ぶ福島の子どもの姿が、強く印象に残ります。



子どもを豊かな自然の中で育てたいと願いながら、それがかなわない親の辛い思い。事故後4年が経過し、放射線量が低下した地域もあるでしょうが、周囲の野山は手つかずのまま。今後も、そうした環境に生活せざるを得ない親子を支援して行きたいと思います。「3泊4日でどれほどの効果があるのか」と疑問も抱いていましたが、「心の除染」効果はあったようですね。
(伊那市 小牧)

2015年9月19日は、日本の未来にとって大きな転換点となった。この日、集団的自衛権を中心とする安全保障法案が、自民・公明両党による強行採決で参議院を通過した。今後、自衛隊は世界のどこにでも出かけ、武力行使が可能になった。70年続いた平和国家日本は、戦争が出来る普通の国になった。責任は国民にある。福島原発事故の被災者の苦しみを無視し、再び原発推進を始めた安倍政権を選んだのも国民である。このままで良いのか。政治が変わらなければ社会は変わらない。今こそ、民主主義の原点に立って未来のために努力しよう。

福島原発事故の今

東日本大震災に伴う福島原発爆発事故から4年半が経った。8月末までに、福島県内で見つかった18歳以下の子どもの甲状腺がん患者は137名。実に、県内の子どもの2,193名に1名が甲状腺がんだったことになる。百万人当たりでは455名、通常の100倍を超える。こうした事実、当初原発事故とは無関係としてきた県も、関係を認めざるを得なくなっている。チェルノブイリの経験からすれば、小児甲状腺がんの発症率は事故から10年目がピークであり、福島県の小児甲状腺がん患者は、今後も増え続けるだろう。小児甲状腺がんは被曝の象徴でしかない。チェルノブイリでは、大人の被曝の結果は心臓病や脳血管病が最も多い。福島県は、大人の震災関連死が東北地方で最も多いが、多くはこれらが死因であるにも関わらず、ストレスが原因とされている。

一方、福島原発の事故処理の現実はいくつも悲観的である。毎日6千人の作業員が被曝労働をしながら、廃炉への道筋は見えない。廃炉作業自体が、国民の税金を流し込む原子力産業界の莫大な利益になっている。ゼネコンにとっても、何時果てるとも知れない膨大な量の除染廃棄物処理は、願ってもない利益である。こうした負の遺産に対する経済的負担をしているのは、国民である。原子力産業は原発をすることで利益を得、事故を起こして更に利益を得る。事故がなくても廃炉が利益になる。原子力産業は、同時に軍需産業でもある。

原発の由来

そもそも、原発は国民のためではなかった。1954年のアイゼンハワー大統領の演説「アトムズ・フォアピース（平和のための原子力）」という、東西冷戦時代のアメリカによる

各国の囲い込みに対し、真っ先に迎合したのが日本だったのだ。それ以後、次々に原発を設置し、アメリカ、フランスに次ぐ世界三位の原発大国になった。根拠のない「安全神話」によって、経済的な貧困地域を金でだまし、依存症にしてきた。すべては原子力産業と電力業界の利益の犠牲だった。福島原発事故を抱えた今、過去のすべてを反省・検証し、新たな未来を構築しなければならない。

安全保障法案と原発

今、この国は大きな転換点にある。安倍政権は念願だった憲法改悪を見据えて、解釈改憲を行い、集団的自衛権行使を可能にした。この間、あまり議論にはならなかったが、原子力基本法に「国家の安全保障に資する」との文言を新たに加え、将来的に核兵器保有の可能性を明記した。技術的にも経済的にも可能性がなく、破たんした「核燃料サイクル」に固執しているのも、それが原因である。また宇宙開発でも、目的を「平和利用に限る」との条項を削除し、「安全保障に資する」との文言を加えた。目的が定かでない人工衛星が、既にいくつも打ち上げられている。安倍政権は、着々とこの国の軍事力強化をめざし、戦争の出来る国を作ろうとしている。その主張の根幹「抑止力」は、危険な思想である。仮想敵は互いに抑止力を行って、際限のない軍拡競争に向かうからである。

民主主義は選挙で

今、改めて国民の多くが学んだ安倍政権の目論みを阻止し、政治の転換を図るために次期参議院選挙で勝たなければならない。

(2015年9月25日 河田)

< 私たち NGO は、 丸腰で国境を越える >

名古屋 NGO センターに集う市民と 名古屋 NGO センターによる、 安保法制 2 法案に反対する声明

国際協力 NGO は、丸腰で国境を越える
その手は、土を耕し、種を播き、握手を求める
国際協力 NGO は全世界の人々とともに
平和を創造することをめざす

平和の実現に必要なことは
即時停戦と、武器弾薬の廃棄と、軍隊の廃止
そして、貧困と暴力と格差の根絶

日本政府は、安保法制で戦争を可能にし
世界のすみずみへ自衛隊を派遣しようとして凶っている
安保法制は
戦争放棄を定めた日本国憲法に違反している

政府与党は集団的自衛権の行使を容認し、
安保法案を強行採決した
一内閣の判断で憲法解釈を変えることは、
立憲主義を否定する行為である
憲法に反する法案を強行採決することは、
民主主義を踏みしめる暴挙である

かつてイラク戦争で、
航空自衛隊小牧基地から飛び立った輸送機が
米軍の兵員と武器の輸送を行い、
名古屋高裁で違憲と判断された
私たちは再び加害者となることを望まない

私たちが望むのは、
戦争と貧困と暴力と格差のない世界
安保法制は、
戦争と貧困と暴力と格差をさらに拡大する
だから、安保法制に反対する

日本国憲法に明確に違反し、
この国が暴走しようとするとき
それを止めるのは
私たちの権利であり、責任である



< 誰が戦争を欲しているのか？ >

私は、この声明文の作成にスタートから参加しましたので、思い入れも強く、「美しく力強い」仕上がりになったことには、十分満足しています。

この声明文は、最終的に「7 連」構成となりましたが、私の考えが実現しなかった「幻の第 3 連」について、少し触れたいと思います。「平和の実現に必要なことは…」という「第 2 連」の次に挿入したい声明は、以下の通りです。

- 誰が戦争を欲し、誰が武器弾薬の製造を欲しているのか
- 誰が軍隊を作り、誰が貧困と暴力と格差を生み出しているのか
- 私たちは世界中で、幾度となくその真実を目撃している。

私が、今回の声明文の中で一番訴えたいことは、「地球から戦争をなくそう！」「平和な世界を作ろう！」「その根本にある原因を絶とう！」ということです。

もちろん、今回の「安保法制」は、「日本を戦争のできる国にしてしまう」という点で大問題です。しかし、今まで（第二次世界大戦後の 70 年間）、「日本は戦争をしない」「人殺しをしない」国でした。

ところが、その間にも世界中で戦争は繰り返されてきたのです。これは、「日本国（日本人）以外の誰かが、戦争を欲し、自ら戦争を実行してきた」という動かぬ証拠です。

私は、「これらの戦争を誰が行ってきたのか？」…そこに目を向け、問題を投げかけないかぎり、「世界平和」は絶対に訪れないと考えています。それが、上記の「幻の第 3 連」を入れることにこだわる理由です。
(神野 英樹)

<木村真三さん 同行記>

今年7月下旬、獨協医科大学准教授の木村真三さん、同大助教の小正裕佳子さんに同行し、ナロジチ地区で彼らのグループが継続して行っている調査の通訳として訪うしてきました。4月の「救援・中部」派遣団との訪問以来3ヶ月ぶりです。かつて「救援・中部」のナタネプロジェクトでも協力してくれた、ジトーミル国立農業生態学大学のディードゥフ准教授が現地の研究分担者として参加、キエフ在住の通訳五代さんも同行してくれました。調査のテーマは「原発事故被災地域における食と健康に関する予防医学的研究」というもので、木村さんたちのグループは同様の調査を福島汚染地域でも行っているそうです。今回はナロジチ町の11家族を対象に、ほぼ自給に近い彼らの食事を1日1人分そのまま提供してもらい、その放射能を測定。一方で各人の内部被曝線量と5日間の積算外部被曝線量も測定し、また彼らの健康状態を知るため過去のカルテを提供していただき、その分析を行う、という内容です。この調査は月1回で1年間行うことになっており、その後すでに8月・9月とディードゥフ・五代の両氏が続けて行っていますが、7月はその初回ということで事前の準備も念入りなものでした。この調査で得られた、食材に含まれるセシウム137の測定結果からは、各家族が自宅近辺で放牧している牛の牛乳の放射能が高いもので164ベクレル/kg、乾燥キノコが23,000ベクレル/kg、ベリー（セイヨウスノキ）が253ベクレル/kgと、これらの食品の汚染に引き続き留意が必要なが明らかです。

日本でも報道されている通り、ウクライナ東部での武力衝突は膠着状態になっており、和平交渉も実質上頓挫した状況が続いていたのですが、木村さんや私の知人であるTさん（もともと物理学者で、チェルノブイリ事故後環境保護運動グループに参加、グリーンピース等の国際プロジェクトに協力してきた、現在は世界銀行のウクライナでの顧問だとか）の息子であるAさんも招集され、ウクライナ国軍のミサイル部隊に参戦していました。Aさんはもともとコンピュータのプログラマーで、カナダに移住した友人たちとプログラム開発の会社を作って仕事しているという話でしたが、独学で日本語を勉強し

た後、日本に一時滞在して日本語学校に通い、かなりの日本語力を身につけた秀才です。休暇中のAさんが木村さんに語ったところでは、すでに激しい戦闘はなく、時折義務的に(?)双方から発砲が行われている程度だとか。私たちの滞在したキエフやジトーミル州では、東部からあるいは東部への移動中なのか、駅などで軍服の若者たちの団体を見かけたくらいで、日常で戦争を強く意識させられることはありませんでした。しかし、この戦時体制を維持するため、膨大な国費が使われているのも事実で、当然ウクライナ経済は深刻な状態に陥っています。私の友人のエコノミストJ君の話では、2014年末でウクライナの国家債務は国内総生産の70%に達しており、2015年中のインフレ率は46~60%と見積もられている由（グリヴナ・レート急激な下落と石油・ガス価格の上昇による）。キエフ市統計局のデータによると、2015年前半だけで医療・医薬品の価格は23.2%、公共料金は44.2%、野菜の価格は約67%、パンの価格は40.8%それぞれ上昇したとのこと。

私が今日にしたばかりの9月29日付のウクライナでの報道によれば、「ウクライナ・ロシア・欧州安全保障協力機構の3者が、口径100mm以下の銃器を紛争地域から引き上げる件で合意に達した」とされています。この合意書に、ドネツク・ルガンスク両人民共和国の代表者も署名する運びになっているようで、これが和平交渉を促進する動きにつながることを願わずにはいられません。（9月30日 竹内 高明）



<測定されるナロジチ地区住民の食材>



第11回 チェルノブイリ/フクシマ講座（2015年度 第1回目）のご案内

チェルノブイリとフクシマ

～原発事故被災者と心をつなぐ交流会～

－ 3回連続講座 ①－

お待たせいたしました！ しばらくお休みしていた「チェルノブイリ/フクシマ講座」を、新企画で開催いたします。

この講座の回を重ねるたびに感じたこと、それは『チェルノブイリとフクシマを結びつけることができるのは、「チェル救」だけ』ということです。多くのフクシマ支援者のなかでも、「チェル救」はチェルノブイリの被災者のことを知り、今でも交流を続けている、数少ない存在です。「それを生かした支援があるのではないかと模索していたところ、今年4月、チェルノブイリの被災地を訪れたスタッフが、現地でヒントをもらってきました。それは、チェルノブイリとフクシマの被災者の、「手紙を通しての交流」です。

いまウクライナでは、「母親たちの希望の光」キャンペーンが始まり、フクシマの被災者に向けての手紙を募っています。書いてくれるのは、30年前に子どもの身を案じた母親たち、そして事故当時は子どもで、いま母親となったお母さんたちです。届くのが待ち遠しいです。

次回の講座ではまず、チェルノブイリから10年後に発行した『チェルノブイリからの手紙』を読みながら、お互いの想いに触れ合う場にしたいと思います。

講座は3回（2回目は来年1月、3回目は3月）を予定しています。講座の中で、チェルノブイリ原発の事故について、そして今のウクライナについてのミニ講座も行います。参加をお待ちしております。

「1～3回を終えた時、皆さん（日本の母親たち）のメッセージが小冊子となり、ウクライナの母親たちに届けられることになればいいな…」と思っています。

- ◆日 時 2015年11月15日（日）
10時30分～12時30分
- ◆場 所 名古屋YWCA 2階 201室・202室
（地下鉄栄駅⑤出口から徒歩3分）
- ◆参加費 500円（避難者は無料です）



〈講座の様子〉



午後1時～5時には、同じ名古屋YWCA
405室で、クリスマスカードつくりの
ワークショップも行います!!

事務局便り

この度、兼松さんの産休・育休の間、会計係を担当することになりました上田千津子と申します。3ヶ月に渡り猛特訓を受けましたが、何しろ65歳。心細い思いの中、事務局の方々にフォローしていただきながら、そして時々(?)兼松さんに連絡を取りながら、毎日の業務を行っています。10月に入り、助成金の報告や中間決算、南相馬放射線測定などの予定が待ち構えています。どうぞ読者の皆様も、私にパワーを送ってください(笑)。さて、とうとう安保法制案が可決されました(怒)。ウクライナにおいても、戦時下の財政政策がとられ、弱い立場の人々がより厳しい立場に追い込まれています。断じて日本はそうなってはなりません。(上田)

新発売! 「油菜ちゃん」を使って、マヨネーズを作りました。

菜種油の「油菜ちゃん」、もう試していただけたでしょうか?

新鮮な生野菜には、塩・胡椒や、らっきょうの漬け汁を混ぜたドレッシング。和食の定番のご馳走、天ぷらや素揚げはもちろん、ワイン片手に「アヒージョ」っていう、ニンニクと油で煮るスペイン料理も良いですね。

さて、胃もたれしない油菜ちゃんで、今年はマヨネーズを作りました。「油菜マヨ(¥780)」です! そのままだと少し辛子の味で、とても好評です。アボカドとワサビを混ぜて、「ディップ」にするというのも大人味で美味しいですよ。先日の「種まき会」の昼食で試食してきました。味噌を混ぜるっていうのはどうかな? レシピの提案お待ちしております。(美)



編集後記

- ☆福山雅治結婚! 所属事務所株価大暴落! 時価総額40億減! 日本の景気はこのように左右するのか。自民党のアイドル小泉進次郎が結婚したら、自民党大敗もありうるかも? (佳)
- ☆節約のため、仙台まで夜行バスを使うルートで南相馬へ向かった。せっかくだから原ノ町駅までを、直行バスではなくJR常磐線(途中代行バス)で行ってみた。2回も乗換えたが、初めての路線だったのでワクワク...これは乗り鉄。写真も撮ったから撮り鉄。全線開通が待ち遠しい。(美)
- ☆第70回国連総会で、ロシアのプーチン大統領が演説をし、会場を埋めつくす各国の首脳が真剣に耳を傾けた。そして、9月30日、ついにロシアが「IS(=ネオナチの傭兵集団)」に対する空爆を開始した。「止めなければならないのは、難民の流入ではなく、その元凶であるテロリストだ!」「ロシアは、シリアで合法的に軍事作戦を行う、唯一の国である!」「シリア危機は、終わりに近づいている。これは、ロシアによるアサド政権への支援の結果だ!」「例外主義を標榜し、全く責任を取ろうとしない侵略国を認めてはいけない!」「米国は、我々が提案する共同の取り組み『広範な国際対テロ連合』に加わる以外、選択肢はない!」...ロシアの毅然とした宣言に、米国・イスラエル・サウジアラビアのネオナチは、風前の灯となっている。地球は、世界平和に向けて動き出した。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473